

科 目	必・選	担 当 教 員	学 年 ・ 学 科				単 位 数	授 業 形 態				
英文法 (English Grammar)	必修	井上 卓	1 年 生 電気情報工学科				2	通 年 週 2 時間				
授業概要	英語の基本文法の各事項について講義し、あわせて演習を行う。											
到達目標	基本的な文法用語の意味を理解し、教科書にまとめられている英語初級文法に関し、少なくとも 6 割以上の理解と運用能力をめざす。また母語である日本語に加えて外国語である英語の文法を学習し、品詞や時制や格といった基本的な一般文法概念を習得させることで、英語以外の外国語を学習する場合の基礎ともする。											
評価方法	4 回の定期試験（6 0 %） および授業中の小テスト（4 0 %） で評価する。											
教科書等	Framemork English Grammar in 23 Lessons (6 <sup>th</sup> edition) (桐原書店) Framemork English Grammar More Drills (6 <sup>th</sup> edition) (桐原書店)											
内 容											学習・教育目標	
第 1 週	授業紹介、勉強の仕方、「品詞と文の要素」（教科書 pp. 6-7）										D	
第 2 週	Option 1「動詞と文型」（教科書 pp. 80-83）										D	
第 3 週	第 1 章「動詞と時制（1）」（教科書 pp. 12-13）										D	
第 4 週	第 2 章「動詞と時制（2）」（教科書 pp. 14-15）										D	
第 5 週	第 3 章「動詞と時制（3）」（教科書 pp. 16-17）										D	
第 6 週	第 4 章「完了形（1）」（教科書 pp. 18-19）										D	
第 7 週	Plus「完了形」（教科書 pp. 20-21）										D	
第 8 週	第 5 章「完了形（2）」（教科書 pp. 22-23）										D	
第 9 週	定期試験の返却と解説 第 6 章「助動詞（1）」（教科書 pp. 24-25）										D	
第 1 0 週	第 7 章「助動詞（2）」（教科書 pp. 26-27）										D	
第 1 1 週	第 8 章「態（1）」（教科書 pp. 30-31）										D	
第 1 2 週	第 9 章「態（2）」（教科書 pp. 32-33）										D	
第 1 3 週	第 1 0 章「不定詞（1）」（教科書 pp. 36-37）										D	
第 1 4 週	第 1 1 章「不定詞（2）」（教科書 pp. 38-39）										D	
第 1 5 週	第 1 2 章「不定詞（3）」（教科書 pp. 40-41）										D	
第 1 6 週	定期試験の返却と解説 第 1 3 章「動名詞」（教科書 pp. 46-47）										D	
第 1 7 週	Plus「動名詞①②」（教科書 pp. 48-51）										D	
第 1 8 週	第 1 4 章「分詞（1）」（教科書 pp. 52-53）										D	
第 1 9 週	第 1 5 章「分詞（2）」（教科書 pp. 54-55）										D	
第 2 0 週	第 1 6 章「分詞（3）」（教科書 pp. 56-57）										D	
第 2 1 週	第 1 7 章「比較（1）」（教科書 pp. 60-61）										D	
第 2 2 週	第 1 8 章「比較（2）」（教科書 pp. 62-63）										D	
第 2 3 週	Option 8「時制の一致」 Option 9「話法」（教科書 pp. 98-99）										D	
第 2 4 週	定期試験の返却と解説 第 1 9 章「関係詞（1）」（教科書 pp. 66-67）										D	
第 2 5 週	第 2 0 章「関係詞（2）」（教科書 pp. 68-69）										D	
第 2 6 週	第 2 1 章「関係詞（3）」（教科書 pp. 70-71）										D	
第 2 7 週	Plus「複合関係代名詞」（教科書 pp. 72-73）										D	
第 2 8 週	第 2 2 章「仮定法（1）」教科書 pp. 74-75）										D	
第 2 9 週	第 2 3 章「仮定法（2）」教科書 pp. 76-77）										D	
第 3 0 週	Option 2, 3, 4「疑問文、否定、いろいろな構文」教科書 pp. 84-87）										D	
(特記事項)		JABEE との 関 連										
		JABEE	a	b	c	d1	d2a) d)	d2b) c)	e	f	g	h
		本校の学習 ・教育目標	A	A	C-1	C-1	C-2	B	B	D	C-3	B
									◎			

1. 合格ラインについて、特に記載の無いものは、60点以上を合格とします。

2. 定期試験について、特に記載の無いものは、評価配分を均等とします。(【例】年4回定期試験を実施した場合の各定期試験の評価配分は、特に記載の無いものは、25%ずつとなります。)

## 「英文法」ガイダンス

皆さんは、「父」「ビール」「は」「を」「飲む」という単語を与えられて「文を作りなさい」と指示されると、誤ることなく「父はビールを飲む」と文を作ることができます。でもこれは一体なぜでしょう？

それは皆さんが、16年の間（15年だけではなく、お母さんのお腹のなかでいた一年ももちろん含めてですよ。人は生まれる前から、お父さんやお母さんの声を聞いて、これから自分が生まれ出てゆく世界のことを「勉強」しているのです）に、「父」と「ビール」は「名詞」すなわち主語や目的語になることのできる単語で、「は」がつけば主語に、「を」（この「は」や「を」のことを格助詞と呼びます）がつけば目的語になるということを知っていて、「飲む」が動詞で、主語の動作を表すことを知っているからです。そして各語句を動詞が文末にくるように並べて、「父は／ビールを／飲む」とすると正しい日本語の文ができたのです。さらにこの文は、「名詞＋格助詞」のセット全体の位置を入れ替えて「ビールを／父は／飲む」としてもOKであるということ、しかし「名詞」のみの位置を入れ替えて「ビールは父を飲む」とすると全く別な意味の文となることも知っていますね。（日本語には「酒は人を呑む」という言い回しがありますが知っていますか？）このように言葉を成り立たせるためのいろいろな規則（主に単語の並べ方や単語の形の変化の仕方）のことを「文法」と呼びます。

英語で「father」「beer」「drink」という単語を与えられて「文を作りなさい」と指示されると、皆さんは誤ることなく「Father drinks beer.」と文を作ることができだでしょうか？ 日本語と同じ語順で「Father beer drinks.」という文ができるわけではありませんし、日本語と同じように、動詞を変化させずに「Father drink beer.」とすると誤りでした。また名詞の位置を入れ替えて「Beer drinks father.」とすると、元の文とはぜんぜん違う意味の文になってしまいます。これは一体何故でしょう？ そしてそもそも英語には「は」や「が」にあたる単語がありませんから、材料にする単語は、英語が3個なのに対して日本語は5個でした。日本語や英語だけではなくどの国の言葉にも、その言葉を成り立たせている「文法」があります。英語も「読む／書く／聞く／話す」といった能力をしっかりと身につけていくためには、この文法をしっかりと理解し身につけてはいけません。

授業では、英語の文法の基本的な概要を、教科書にしたがって簡略かつ体系的に学習します。

使用教材として2点購入してもらっていますが、授業では Framemork English Grammar in 23 Lessons のほうを主に用います。もう一方の Framemork English Grammar More Drills は自習練習問題集（ドリル）で、解答を配布しますので各自で解き、答え合わせを行ってください。

原則として毎回の授業の冒頭で小テストを行います。各授業で学んだことをしっかりと復習し、各自でドリルをやって小テストに備えてください。

英語は頭で理解するだけでなく、覚えて忘れないようにしていかなければいけません。それには、頭、眼、耳、そして体をフル動員することが大切です。例文や問題文を「きちんと理解する」「しっかりと見る」「よく聞く」そして「何度も手で書く」ことを実行しましょう。